



60

逆賊の幕臣

おぐりこうずけのすけただまさ
小栗上野介忠順

2027年NHK大河ドラマの主人公、小栗忠順ゆかりの地である群馬県高崎市倉渕町の「道の駅 くらぶち小栗の里」と小栗上野介 忠順の遺品とお墓のある「東善寺」を訪ねてきました。

「道の駅 くらぶち小栗の里」では小栗上野介の生涯を写真にて企画展として展示していました。また小栗上野介の業績などを示した「小栗かるた」という「かるた」が作られていてこの企画展で写真と共に展示されていました。かるたの絵は漫画家の木村直己氏によるものでした。

東善寺にはお墓と遺品と多くの資料があり、遺品と資料は資料室と堂内にあり、また映像での詳細説明もありました。

お墓は2ヶ所があり、1ヶ所は本堂のそばに、もう一つは裏山にあり、こちらが本当のお墓ということでした。

遺品は討幕軍が没収したため少ないとのこと。埋蔵金伝説は小栗上野介をおとしめるために流されたデマとこのことで私も同じ考えを持っていました。住職は小栗上野介研究の第一人者で私が見学した時もいろいろ説明していただきました。

高崎市倉渕町は高崎市と言っても高崎市の中心部からだいぶ離れていて榛名山のふもとでした。

東善寺でいただいたパンフレットに小栗上野介の詳細が書かれていました。



江戸幕府役職履歴

天保14年(1843年)3月22日 - 江戸城に初登城。徳川家慶に御目見え。

弘化4年(1847年)4月16日 - 小栗忠高嫡子の身分のまま、西の丸書院番に登用され、役料300石を支給される。

嘉永6年(1853年) - 進物番出役に登用される。徳川家定に近侍する。

嘉永7年(1854年) - 外国船に対する警戒のため、浜御殿の警備を担当する。

安政2年(1855年) - 父、忠高が急死。家督を相続し、又一を称する。

安政4年(1857年) - 書院番(九番組)大岡豊後守清謙組進物番出役から使番に異動。

安政6年(1859年) - 使番から目付に異動。翌日、日米修好通商条約批准のため使節として渡米を命じられる。従五位下・豊後守に叙任。

万延元年(1860年)11月8日 - 目付から外国奉行に異動。

文久元年(1861年) - ロシア軍艦対馬占領事件の報を受け、対馬に出張。軍艦艦長ビリレフと3度に渡り交渉。

文久3年(1863年) - 勘定奉行・勝手方・歩兵奉行・講武所御用取扱を辞し、寄合席。豊後守から上野介に遷任。

元治元年(1864年) - 勘定奉行・勝手方となる。軍艦奉行に異動。

元治2年(1865年) - 横須賀製鉄所御用掛に栗本瀬兵衛らと共に任ぜられる。フランスと製鉄所建設の約定を交わす。軍艦奉行を辞し、寄合席。

改元して慶応元年5月4日 - 勘定奉行・勝手方となる。

慶応2年(1866年)4月、兵庫商社設立の建議書を幕府に提出。関税税率改定交渉に主要人物として参加。

慶応3年(1867年)5月武蔵国豊島郡滝野川村に火薬製造所を設立。

慶応4年(1868年) - 陸軍奉行並、勘定奉行を御役御免、勤仕並寄合と就る。知行地がある上野国群馬郡権田村への土着願を、寄合肝煎、平岡道弘へと提出。翌29日、許可される¹



上野介(左)と小栗忠高(右)

罪阿多士野介新

日本近代化は小栗上野介のレールの上に――

■ 諸代の旗本に生まれ、遣米使節として米国―世界一國の旅から帰国すると外国、揚子江、江戸町、歩兵、陸軍、軍艦、海軍各奉行を歴任。幕府の要職にあって米国での見聞を基に日本近代化の方策を実行に移し、横須賀造船所建設、仏語伝習所や日本初の株式会社兵庫商社の設立、仏式軍隊の導入訓練、滝野川反射炉による大砲製造のほかガス灯・郵便制度・鉄道・新聞発行を提唱するなど幕末の多岐なかに活躍、「明治の近代化は小栗の敷いたレールの上になされた」といわれる業績を残している。

■ 幕府崩壊後、移り住んだ領地権田村で、上野介、塚本真彦・荒川祐蔵・佐藤藤七とアメリカ帰りの四人が若者の教育を目指した。しかし、小栗公の実力を恐れた西軍により小栗父子は家臣とともに無実の罪で斬首された。

■ 村人は夫人・母堂らを薩摩、山内はるかに野反湖―新潟―会津へ逃れ、会津で生まれた女兒とともに、戊辰戦争後に静岡まで送り届けその遺族を護った。それは何の報償も求めぬ義挙であった。

逆賊の幕臣

2027年NHK大河ドラマは、前にも述べたように小栗上野介忠順おぐりこうずけのすけただまさを主人公に取り上げることに
なりました。

小栗忠順おぐりただまさは、勝海舟のライバルとも言われ、日本の近代化に貢献しました、主演は松坂桃李さん
が務めることになりました。66作目となるこの大河ドラマ「逆賊の幕臣」は、江戸幕府の使節団とし
てアメリカを訪問した小栗忠順が、帰国後に日本の近代化を進めようと奔走するも、その後、明治
新政府に「逆賊」と見なされるまでの過程が描かれます。

〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

# 1 鎌倉殿の13人	#21 第50回宇都宮市民合唱祭	#41 伊勢崎市の歴史／バレンタインデー
# 2 紅葉の群馬県	#22 骨波田の藤と塙 保己一	#42 第51回宇都宮市民合唱祭
# 3 栃木、埼玉の名所	#23 大室古墳群、鼻高展望花の丘	#43 古の音 スペイン黄金世紀のビウエラ歌曲
# 4 栃木、群馬県庁	#24 桜とあじさい、紅葉の太平山	#44 池 大雅 ― 陽光の山水
# 5 全国御守り特集	#25 ドン合唱団 歌い続けて65年	#45 富岡製糸場と絹産業遺跡群 田島弥平旧宅
# 6 世良田東照宮・家康	#26 宇都宮市民芸術祭合唱フェス	#46 古代蓮と田んぼアート 埼玉県行田市・古代蓮の里
# 7 栃木・益子の陶器	#27 第63回群馬県合唱コンクールを聴く	#47 SUBARU航空宇宙カンパニー
# 8 奥の細道むすびの地	#28 お盆飾りを調べてみた	#48 秋の演奏会シーズン到来
# 9 古鎌倉街道	#29 KTC混声合唱団を聴く	#49 銅山の歴史を語る日鉱記念館
#10 新田義貞・上毛かるた	#30 伊勢崎藩を守れ！天明浅間山大噴火	#50 上州神社巡拝 神玉巡り
#11 慈覚大師 円仁	#31 陶器・像形展から銀座・日本橋界隈を散策	#51 床もみじ リフレクション、床に映える世界
#12 バレンタインチョコ	#32 宇都宮芳賀ライトレール線開業	#52 日清製粉「製粉ミュージアム」、田中正造記念館など
#13 梅の名所 愛知・京都	#33 第14回男声合唱フェスティバルin宇都宮	#53 2024 年末に聴いたコンサート
#14 梅の名所 栃木・群馬	#34 コア・リヒト 第5回演奏会	#54 冠稲荷神社&バレンタインチョコ
#15 早咲きの河津桜	#35 江戸城周辺散策	#55 関東三大梅林のひとつ 越生梅林
#16 シアトルの花見	#36 古巣の合唱団ノース・エコとボーイング	#56 宇都宮市民合唱祭・ドン合唱団「この街で」、航空…
#17 宇都宮市民合唱祭	#37 4泊5日の日光満喫旅行	#57 復活祭ミサに参加 カトリック前橋教会
#18 桜の名所 愛知・兵庫	#38 日光で新たな発見！	#58 高崎の地に建つ 新田義重騎馬像
#19 群馬の桜と上毛かるた	#39 水戸バッハコレギウムを聴く	#59 混声合唱団ソノラメンテでバッハを歌う 独唱も
#20 交通の要所・館林	#40 笠間焼 益子焼 かさましこ	

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る